

知事との県民対話集会（売木村）概要

- ・開催日時 令和5年8月30日（水） 午後2時30分から午後4時まで
- ・会場 売木村文化交流センター 「ぶなの木」研修室
- ・参加者 県民40名、清水売木村長、阿部知事、丹羽南信州地域振興局長 他
- ・テーマ 人口減少からの村の存続について

【参加者】

- ・国道418号の売木から平谷までの間の道路改良をお願いしたい。大災害などが起きたときに、村内の消防団員だけでは対応できない。村外の町村や県外から応援を頼むことになったときに、道が険しいとそれだけ時間がかかってしまう。
- ・村にも医師が常時いるわけではないので、救急車が到着するまでの時間も他の地域と比べると時間がかかっている。

【参加者】

- ・旅館を営んでいる。特に冬になると平谷峠が雪や凍結でとても怖いという話がお客さんからもあり、なかなか冬場に旅館にお客さんに来ていただけなくなる。平谷峠にトンネルを開けようという陳情を村からもしていると思うが、莫大なお金をかけるということはなかなか難しいと感じている。

【参加者】

- ・生きているうちに平谷峠のトンネル化は無理ではないかと残念に思っている。

【知事】

- ・長野県は山に囲まれた地域が多いので、県内を回るとトンネルの建設をはじめ道路整備に関する御意見をたくさんいただく。道路管理をしている立場としては不便で通りづらい危険な道路が各所にあり、申し訳なく思う。
- ・これから人口が減っていく中では、道路の新設も必要ではあるが、維持管理をもっとしっかりとやっていくべきだと考えている。道路の拡張やトンネルを要望されている方が多い中で言いにくいですが、まずは適正な維持管理にしっかり取り組んでいきたい。
- ・しかし、何も新しいことをやらないのかということ、そういうつもりはない。改良したり新しい道路をつくったりすることも大事だと思うが、その際に優先順位をつけていく必要がある。
- ・今すぐにトンネルをつくりますとは申し上げられないが、公共事業のあり方を、単純なビーバイシーの評価だけではなく、もう少し政策的な観点を交えて考えていきたいと思っているので、ご理解をいただきたい。
- ・今日の対話集会で平谷峠については頭に入れたので忘れないようにしていきたい。

【清水飯田建設事務所維持管理課長】

- ・地域の皆様のご協力をいただく中で、阿南町側の境にあるトンネルや道路改良などを順次進めている。平谷峠は、売木村における平谷側の玄関口ということで、早い段階から整備を進めてきた。急峻な地形の現道を拡幅して、二車線を確保するという命題を進めてきた中で、勾配やカーブがきついついところが残っている状況ではあるが、二車線の整備は進んできたところである。
- ・峠などは標高が高いため、冬場はどうしても寒冷になる。適正な維持管理を目指す中で、除雪や融雪剤の散布等にしっかり取り組んでいるところである。

【参加者】

- ・村の人口が急激に減っている。他の市町村の対話集会でいろいろな話を聞かれていると思うが、こんな取組は効果があった等の好事例があれば教えてほしい。

【知事】

- ・私が見ている、うまくいっている市町村の雰囲気は、横のつながりがあることが特徴的である。地域で横につながっているところは、一定の成果が上がっていると思う。
- ・もう一つ、突出した観光地や大きな市ではないところに関心を持っている若い人たちも多い。なぜそういうところに関心を持っているか聞くと、フラットに受け入れてくれるということである。私が見ていると、うちの地域はこれが困っているんだということをフランクに伝え、皆に期待しているんだよという形で温かく受け入れてくれる地域には若い人たちが関心を持っていると思う。

【参加者】

- ・売木村に移住して4年目になる。人口を増やすには、やはり移住であると思う。まずは売木村の存在を知ってもらわなくてはならない。小さな村では、アピール活動だけでも人手不足により困難である。県として東京や名古屋でイベントを開催し、市町村ブースをつくってもらえれば、関心を持っていただける機会になると思う。
- ・また、田舎に突然移住することはハードルが高いことから、県として移住ツアーなどをつくっていただき、町村を回ることをするのはどうか。
- ・住居に関しては、住む場所がなく離れていく人がいる。県営住宅等を整備し、また、最初の1年間だけでも住宅補助をしてもらえないかと思う。
- ・村の雰囲気に移住を決める方もおり、重要である。そのため、村民の充実度向上も必要であると思う。村民の方が充実した表情をしていると住みたいと感じる村外の方は増えると思う。

【知事】

- ・銀座NAGANOは県の枠組みの場ではあるが、各市町村にも活用いただいている。その他、移住セミナーも開催している。移住体験ツアーについては、取り組んだ方がよいと思うが、費用の分担などの課題があるので宿題とさせてほしい。
- ・住宅については、市町村との役割分担で、できるだけ身近な自治体にやっていただきたいと考えており、県営住宅は縮小する方向である。ただし、住まい方は非常に重要であるため、単に縮小するだけはいけないと思っている。今ある県営住宅をもっと使ってパイロット的な暮らし方の提案ができないかと考えているので、今後取り組んでいきたいと思う。
- ・住宅補助について、持ち家や借家に住んでいる方、借家でも公営住宅や民間住宅の方などがいて、行政はどこをどう支援するかが課題である。ビジネスで回るところであれば、なるべく民間でやっていただくことが望ましいと考えている。
- ・村民の充実度を高めることも大事であり、県で暮らす人が幸せになるように取り組んでいるところ。
- ・ご提案の内容は取り組んでいることもあるが、ほとんど伝わっていないのが問題だと思う。県としても移住政策について、もっと分かりやすく利用者目線で伝えていくようにしたい。

【参加者】

- ・売木村に移住して5年ほどになる。農業をしており、これから拡大したいと考えているが、その際に活用できる制度はあるか。法人化や補助金等について知りたいと考えている。

【佐々木南信州農業農村支援センター所長】

- ・補助事業等の内容については、当センターをはじめ市町村などに相談いただければ、紹介することができる。既に就農されているということなので、機材の導入には国の補助事業の活用もできると思う。

【参加者】

- ・この先移住者の増加を目指すのであれば、小学生に来てもらうことがよいと思う。

【知事】

- ・売木村は、山村留学で子どもたちを受け入れてきており、地域の皆さんが温かく受け入れているということは村にとって大きな財産であると思う。
- ・私も選挙公約の中で山村留学の振興を掲げている。新しく信州自然留学推進協議会をつくった。教育県として子どもたちを受け入れる県であるというメッセージを出していきたい。

【参加者】

- ・村へのアクセスは、南からは時間がかかるがそれほど不便ではない。西から来るときには最寄りのインターは園原インターで平谷峠を通らなければならない、心理的にストレスがある。
- ・村と他の地域の距離を感じる。トンネルは難しいかもしれないが、阿智村にスマートインターがあれば下條村から阿南町経由で来ることができ、すごく便利だと思う。

【知事】

- ・道路の改善要望のある箇所はたくさんあるため、全てのニーズを満たすことは難しいが、優先順位については考えていかなければならない。スマートインターについては全体の構想の中で整備が進められている。売木村を含む広域の交通がどうあるべきかという中でスマートインターの必要性を考えていくことになると思う。
- ・リニア時代に向けて南信州地域をどうするのか道路ネットワークを含めて考えていきたい。

【参加者】

- ・長野県は燃料が日本一高いという問題がある。県では補助を考えているか伺いたい。

【知事】

- ・エネルギー価格に関し、特にガソリン価格の高騰は県民にとって切実な問題と認識している。
- ・県として国に要請したところ、ガソリン価格抑制の補助金を国は縮小する方向だったが、思いとどまる方向になったのでよいことであると思う。また、平時でもガソリン価格は地域間で格差があるため不均衡を是正する仕組みを求めたところ。
- ・価格抑制を県として行うことは、どの段階でどこに補助すべきかなどの複雑な課題があり難しいと考えている。
- ・価格が高いのは長野県に入ってくる輸送ルートなど様々な課題があるためである。輸送業者ともしっかり話し合って改善していかなければならないと考えている。

【参加者】

- ・リニア中央新幹線について、静岡県知事に対して同じ知事の立場としてどう思うか。
- ・長野県駅から東京までは40分だが、売木村から長野県駅まで1時間近くかかる。アクセスに時間がかかる。

【知事】

- ・静岡県知事は、大井川の水量が減ってしまうのではないかと懸念しているが、これについては、国で会議をつくり科学的にどうすべきかを検討しているところである。できるだけ早く検討してもらい、JR東海と静岡県、国土交通省が、多くの方が理解し、納得するような方向性を示してほしいと思っている。
- ・関連道路の整備はしているが、この地域からのアクセスが飛躍的に向上しないということについては受け止めさせていただき、どうすれば多くの人に利便性を感じられるかどうかを引き続き考えていきたい。

【参加者】

- ・子どもの教育環境について、1、2年生と3、4年生が複式学級であり、その解消と教員の数の増加をしてほしい。
- ・医療について、病院が遠く、診療所が開く日が少ないため、増やしてほしいと思っている。

【知事】

- ・小規模な学校の教員数については、子どもの数が減るとどんどん減らされてしまい専門科目の勉強ができないため、市町村が頑張っているという話をよくお聞きする。大きなテーマだと思っている。
- ・今年度から信州学び円卓会議をつくり、教育のあり方を抜本的に見直したいと思っている。対話集会でも、小規模校や先生の働き方の問題など、たくさんのお話が出る。私だけでは変えられないので、円卓会議にいろいろな人に関わってもらい変えていくようにしたい。
- ・来年度、県で保健医療計画をつくることを考えており、県全体の医療機関の関係性や役割分担のグランドデザインを描けないか話をしている。医師が少ない中で、医師も働き方改革が必要である。ますます人手不足になる中で、効果的な医療体制をつくれるかは重要と考えている。
- ・この病院はこういうことを行うということを県民に分かるようにしていきたい。そういった役割分担をする中でも、地域として必要最低限な医療を受けられることも必要であり課題であると考えている。

【参加者】

- ・Iターン、Uターンという言葉に違和感がある。一旦使わないようにすれば、視点が変わるのではないか。

【知事】

- ・元から住んでいる方だけが住民というわけではないと思う。また、長野県は、労働力を海外の方に担っていただいている部分もあるため、そういった人たちをどのように表現するのか。母国に帰る人もいると思うが、そのまま地域に残る人もいる。そういった社会の変化の中でも、I、U、Jターンと言わなくてもよいのではと思っている。
- ・同じ地域で暮らしている人間として平等に協力しないといけないと思うので、違和感を持つ感覚は理解できる。ただし、政策として移住に取り組んでいるときに、Uターンなどの用語を使ってしまう。行政の用語として定着してしまっているが、私も違和感がないわけではない。